

若き力で土耕パプリカの産地づくり ～利根沼田農協 赤城根パプリカ部会～

経営体の概要

設立経過：	平成29年
平成16年 パプリカを試験栽培 3名 10a	作物：パプリカ
平成17年 パプリカ部会設立 8名 60a	栽培面積：180a
	構成員：部会員8名（平均年齢40歳）

取組の経緯と経営転換のポイント等

畑地かんがい施設が整備され、露地野菜の計画的な生産や作物選択の自由度が高まったことから、平成16年に全国的に栽培技術が確立していないパプリカの土耕栽培を始め、翌年に8名で部会を設立した。全国的にも珍しいパプリカの生産部会として、栽培方法や適用品種等の研究を重ね続けている。

営農改善のポイント

①新規作物の導入による経営の安定・向上

畑地かんがい施設が整備された当初は、トマトの雨よけ栽培を導入したが、主要作物（レタス等）と労働力が競合するため、さらなる経営の安定向上を目指し、雨よけパプリカの土耕栽培に取り組む。翌年に農協の部会を設立し、農協や普及指導機関、土地改良区等の連携した支援を受けながら、水や肥料を多く必要なパプリカに適した点滴かんがいの養液土壌栽培技術を確認し、品質・収量の向上と産地化に取り組んでいる。



②天敵等によるIPM(総合防除)技術の導入

パプリカの重要害虫であるアザミウマ類、コナジラミ類等の天敵を利用することで殺虫剤の使用を半以下に抑えている。あわせて、防虫ネットや粘着トラップ等の活用により環境への負荷を抑制しつつ安定生産を行っている。



③積極的な販売促進の活動

今年度から国産パプリカと遠目からも判るように”ぐんまちゃん”を4面に配置した箱で市場出荷を行っている。また、個別包装を行うとともに、二次元バーコード付きクロージャールABEL(結束材)により消費者に対して生産情報を提供してきた。部会員の中にはソース等の加工に取り組む者など、赤城根パプリカの知名度向上と販路拡大に努めている。



事業概要

事業種：国営かんがい排水
関係市町：群馬県前橋市、沼田市、渋川市、昭和村
受益面積：2,400ha
事業期間：昭和56年度～平成12年度
事業目的：用水改良、畑地かんがい、区画整理
主要工事：頭首工1ヶ所、用水路48km、貯水池4ヶ所、
ファームポンド15ヶ所

位置図



<問い合わせ先>

関東農政局
農村振興部農地整備課
営農指導係
電話：048-740-0554

(平成29年度調査時点)